

事例研究

齋藤 忍

株式会社NTTデータ
技術開発本部ソフトウェア工学推進センター
シニアエキスパート

竹内 睦貴

株式会社NTTデータ
技術開発本部ソフトウェア工学推進センター
主任

第3者レビューによる要件定義書の品質向上の取り組み

講演概要

要件定義書はシステム開発のプロジェクトを成功に導くために重要なドキュメントである。顧客とベンダは開発するシステムの仕様を要件定義書に記述し、記述内容について合意する。さらにベンダは要件定義書をもとに開発の見積もり、開発計画を作成する。

要件定義書に記述漏れや曖昧な記述があると、後工程で手戻りや追加作業などの問題が発生すると考えられる。例えば、設計の担当者が要件定義書の曖昧な記述を誤解したまま作業を進めると、誤りに気づいたときに大きな修正作業が必要になる。

そこで筆者らは要件定義書に起因するプロジェクトの問題を防止するために、要件定義書の品質を第3者が定量的に評価し、評価結果と改善提案をプロジェクトにフィードバックする取り組み（要件定義書の第3者レビューの取り組み）を開発し、当社内の開発プロジェクトへの適用を進めている。

要件定義書において記述すべき内容が記述されているか、曖昧でない書き方で記述されているかといった観点で要件定義書の品質を定量的に評価し、品質をスコアの形式で表現する。スコアが低いプロジェクトには要件定義書の改善提案もおこなう。これにより、プロジェクトは要件定義書に起因する問題を予防するための対策を取ることができる。

本報告では、当社の要件定義書の第3者レビューの取り組みの概要を紹介する。取り組みでは適用プロジェクトへの追跡調査をおこない、第3者レビューの適用効果に関するデータを収集した。そこで、要件定義書の品質の可視化・改善がプロジェクトの後工程での工数削減に有用との実証結果も併せて報告する。